

小山田桜台団地内説明会 会議要旨

開催日時：2013年7月16日(火) 19時00分～20時30分

開催場所：小山田南小学校

参加者：50名

《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について
2. 建設予定地の選定について
 - *「町田リサイクル文化センター」(下小山田町3160番地) 検討概要の説明
 - *「上小山田西部エリア」 検討概要の説明
3. 質疑応答 19:30～

〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設 NEWS (vol.4～6)

質疑応答

(市民)

4月に北海道から引っ越してきた。建設の状況がわからないので質問する。今回の説明会は、もうここに造ることが決まったことの説明か。

(町田市)

現在は第三次選定を終え、その結果を市で整理し、今年2月に市長から具体的な場所をご報告しました。先ほどの説明では整備内容についてお話ししました。

(市民)

基本的に装置の説明であって、たとえば福島原発とか沖縄と同じで、ここに住んでいる住民はそれに甘んじて受けなさいと言うことであって、後は単なる装置の説明会の実績を作るということか。

バイオガスはどこでもやっている。しかし、し尿処理は単純だが、生ごみは住民の精神がかかっている。中にはいろんな薬品を勝手に入れる人がいる。そうすると微生物が非常につらい。下水道や単純なものはバイオガスで扱いやすいが、生ごみは苦勞する。いかに住民が生ごみだけを分別できるかにかかっている。うまくいくかどうかは非常に問題である。いまさら言っても仕方が無いが、状況は分かった。

(市民)

4号焼却炉を増設するときに、小山田桜台団地住民を対象に小学校で説明会があり、その結果、住民の30%が反対であったが70%が賛成であった。その折にダイオキシン類の問題が

あり、それからダイオキシン類の測定結果を送ってもらった。小山田南小学校にも測定器を設置してもらった。つい最近では、盛土工事について打ち合わせをさせていただいた。その後、説明の中で、リサイクル文化センターは廃止するという話があり、建物は一切造らないと言われた。リサイクル文化センターは廃止するので安心して下さいと言われた。今後一切施設造らないといった約束はどうなったのか。

(町田市)

4号焼却炉は平成6年に稼動した一番新しい焼却炉です。そのときに、小山田南小学校の中に、ダイオキシン類は測定していませんが、環境大気測定器も設置させていただきました。今でも継続測定しています。最終処分場の盛土工事の説明の中で、「これ以上埋めない」とお話ししましたが、リサイクル文化センターの焼却施設を廃止するというお話については、協定書や協議書を確認しましたが記載されておりません。町田市最終処分場への埋め立ては平成15年に終了しています。現在、最終処分場閉鎖に向けて作業をしていますが、そこにはごみも、焼却灰も入れず、廃止に向けて事業を進めています。

リサイクル文化センターの焼却施設ではなくて、最終処分場の敷地内については、廃止に向けて作業を進めています。

リサイクル文化センターの隣にある、現在、ビン・カンを選別している施設には、以前は焼却施設がありました。その近隣には、法律で最終処分場としての構造基準や維持管理基準が定められるより以前に、何でもかんでも埋めていた旧埋立地があります。これは、基準ができる前から使っていたので、焼却施設で燃えなかったものや、おそらく一部家電製品もあるでしょうし、プラスチックなども埋まっているのではないかと思います。

旧埋立地については、新しい施設の整備にあわせて掘り起こして、状態を確認し、何がどこにどのくらい埋まっているかまず調査を行い、安全な状態にする予定です。現状でも、地下水への影響について町田市最終処分場周辺環境保全協議会で確認しております。

(市民)

そこはもう手を加えないと説明があったが。

(町田市)

埋めたものから地下水への影響があるのも事実です。将来そのままにしておく方がいいかどうか。悪いものが埋まっている場合、対策をとるのが当然と考えています。

(市民)

だいぶ以前、ペットボトル圧縮梱包施設を町ドリサイクル文化センターに造るのかどうか、近隣町内会で、説明会でのやりとりをして、やむを得ないとの結果になったが、町田市が「南に行く。」と言ってペットボトルの話は立ち消えになった。ペットボトル圧縮梱包施設もこの中に入ってくるのはどうかと思う。

(町田市)

ペットボトル圧縮施設ではなく、プラスチック圧縮梱包施設のことと思います。資源ごみ処理施設のペットボトル圧縮梱包施設は、リサイクル文化センターの中には造りません。新しい資源ごみ処理施設である上小山田、相原地区、リレーセンターみなみに運搬して処理します。

(市民)

容器包装プラスチック、豆腐のパックとか卵のパックとか、いつから新たに資源ごみにできるのか。もう少し早くできないか。私は7年前に他市から引っ越してきたが、他市ではそのとき既に分別回収されていた。プラスチックも生ごみに入れなければならないくて、ゴミ袋がいっぱいになってしまう。資源ごみ分別回収を今からやっておけば、生ごみは生ごみで分別できる。容器包装プラスチックの方が生ごみより多い。それが2020年からなんて遅い。ペットボトルは、ネットに入れて分別回収するなど、他の資源ごみは分別収集しており、同じように容器包装プラスチックも圧縮梱包すれば資源になるのもったいないと思う。

(町田市)

町田市も15年くらい前から容器包装プラスチックの資源化を導入しようとしていました。しかし、地元の方との問題や、小山ヶ丘に建設しようとしたときは市の説明が不十分で、場所を決めて説明会に入ったため、できませんでした。今後はそのようなことがないように、プラスチック圧縮実験を市民の方と行い、実験結果を公表し、その上で新しい施設を検討した結果、この場所に決まりました。

(市民)

私は市外から引っ越してきたが、先進市に聞きに行けば、ある程度早く理解できるようになるのではないかな。

(町田市)

市が事業を進めなければいけないとは思っているが、やり方も仕組みも協力いただかなければできないことをご理解いただきたい。

リレーセンターみなみでは、プラスチック圧縮梱包施設を、先行して整備し資源化する計画を立てています。予定では2016年から実施したいと考えています。おっしゃることは感じておりますが、ここは丁寧に進めていかざるを得ない経緯が過去からありますのでご理解いただきたい。

(市民)

燃せるごみとして収集して60%は燃やせるごみで生ごみは40%と、建設ニュース(vol. 6)に書いてあるが、生ごみをなぜ分別収集しないのか。分別装置はどの程度の規模で、どのように分別されるのか。

(町田市)

分別収集も視野に入れて検討してきました。都市ごみ生ごみだけを分別する仕組みを作ること自体、難しいです。みなさんに協力いただき、43万人市民が生ごみだけを徹底して分別していただければ可能であると思いますが、他市での失敗事例もあり、異物が入ってくる確率が高いので、検討した結果、機械で分別していくことになりました。機械選別装置の構造についてですが、昔の二槽式洗濯機の脱水機を横にしたような物が回って、遠心分離されて残ったものを集めて処理をする仕組みです。規模としては50トン規模です。機械選別装置については、実際に稼動しているところやメーカーへの聞き取りを行い、検討委員会

のみなさんにも紹介しながら調べてきましたが、分別率は 90%以上確保できることが実証されており、町田市も 90%以上確保できると考えています。

薬品の話がありましたが、難しいところはありますが、まずは収集してきたものをそのまま機械選別にせず、危険物を判断するような仕組みを調査し、できないかどうかあわせて考えていきます。やはりごみを出す方のモラルにかかっています。可燃ごみの中に工具など異物が入れられる場合もあります。そういうことを想定して、機械選別という方向性を出しました。

(市民)

プラスチックで杉並病が問題になった。多摩地域でもごみ処理施設建設で争いになった地域もある。住民がおとなしいからここで造るのでは住民はたまったものではない。ダイオキシンのときも黙っていて、新聞で騒がれて住民がはじめて騒いだ。都合の悪いことは隠し、なぜ事前に説明しないのか。やり方がおかしい。住民だって、プラスチックのガスを出されたら嫌である。出されたら住民では対応できない。出さないよう対応してもらわないと困る。プラスチック圧縮ガスのデータを出して、説明するのが当たり前だと思う。後になって「公害でした。」と言われても困る。杉並だって、結局どうなったのか分からない。何で町田はここに建設するのか。

(町田市)

杉並の施設は、町田市が造ろうとしている施設と違い、燃やせないごみの圧縮処理施設でした。町田市の容器包装プラスチック圧縮梱包施設では、燃やせないごみの圧縮は行いません。町田市では、2010年6月にプラスチック圧縮時にどのようなガスがでるのか圧縮実験を行いました。市内5地区の町内会自治会に協力をいただき、容器包装プラスチックを回収し、圧縮してどのようなガスが出るか実験しました。実験の結果は、トルエンやクロロホルムなどの揮発性有機化合物が基準値を超えて検出されました。実験結果を公開にしたのは町田市が最初であると思います。クロロホルムの発生原因としては、漂白剤の容器の中に液体が残っていて、圧縮したことによって発生したと考えられています。漂白剤が無ければ、基準を超えなかったと思います。万が一、こういう物質が発生したとしても、活性炭や光触媒などで除去できることが分かっています。実際に稼働している隣の多摩市の施設では、測定結果を公表しており、効果があることが実証されています。

ダイオキシンの問題は平成8年にありましたが、町田市としては隠してはおらず、その時点ですぐに公表して、対策工事を行いました。4号焼却炉は乾式集じん機がついており、ダイオキシンを安全に除去できることがわかったので、当時は4号焼却炉をメインに運転しました。しかし、1号から3号焼却炉については、そのまま運転してはダイオキシンの排ガス基準を超える可能性があったので、対策工事を行いました。

経過については、基準を超えた数字も含めて、みなさんにすぐにお知らせしています。

広報が、どの程度行き届いたかどうかについては確認できませんが、広報などを使ってお知らせしましたし、「このような対策も行います。」ということもお知らせして来ました。一番はじめにいただいたご質問でも、市で勝手に決めてやってきたとお話されましたが、経過は

必ずお知らせしてきておりますし、可能性があるかどうかわからないものについては分析をして公表を含めて実施してきました。今回の新しい資源化施設についても、町内会自治会の代表の方、周辺の代表の方、学識経験者と検討委員会で議論してきており、決して隠してはしていませんし、説明会などを開催し、ご説明する機会を設けてまいりました。

(市民)

建設ニュース (Vol. 6) の「教えてバイオガス化施設 Q&A」には、臭いが漏れないようにしますと書いてあるが、臭いが出ているかどうかをどのような基準と機械で測定するのか。毎日測定するのか、住民から苦情が来た時点で測定するのか。

万が一、臭いが出た場合、誰が責任を持って対応するのか。安全性はもちろんだが、臭いについても近隣住民に一切迷惑をかけないということ、口頭ではなく文書として残して欲しい。文書は既にあるのか、あるとすればどこにあるのか、なければ今後、どういう形で残すのか、以上3点お答えいただきたい。

(町田市)

臭いが漏れない仕組みについてですが、バイオガス化施設は堆肥化施設ではないので空気を必要としない微生物の働きでガスを取り出します。イメージとしては密閉された鉄板の茶筒の中で空気を必要としない微生物の働きでガスを取り出すので、基本的に臭いが出ない構造になっています。しかし、入ってきたごみを選別したり、ガスを取った残りの残さを乾燥させて焼却炉に入れたりするところでは、局所排気装置で空気を引き、焼却施設の燃焼空気に利用します。ですから、外に出る状況にはなりません。

臭いの測定については、臭気分析は定期的には行いますが、日常点検の中で確認していきます。苦情がきてからとは考えていません。日常点検の中で、臭いが出ている場所、出ているだろうと思われる場所がわかれば、すぐに対応していくことは考えています。

万が一、臭いが出た場合は、施設管理者の責任になります。臭いについて何らかの文章を残すのかということですが、地元の方や周辺にお住まいの方と、これから開催する地区連絡会の中で、焼却炉の排ガス、汚水、環境全般について文書を取り交わす予定はしています。

(市民)

資源ごみ処理施設の上小山田西部エリアについては、「ごみ処理施設を造る」というのと町田市の北部丘陵地域に対する基本的な計画と合致しないと思う。農業を中心とした緑の豊かな地域にするという基本計画を町田市は持っている。なぜこの地域にこの施設を造るのか明らかにして欲しい。それから、ごみ資源化施設地区連絡会はこれから作るのか。どういう組織、団体が入るのか。

(町田市)

資源ごみ処理施設の上小山田西部エリアには、北部丘陵地域が一部かかります。北部丘陵地域については、計画を進めていく中で支障あるかどうか検討委員会でも議論しました。資源ごみ処理施設ができることで、道路整備や鶴見川源流への影響がないか、どのくらいの距離を置けばよいかなど総合的に評価しています。これについては、実際に検討委員会の中で結

果を出しましたが、北部丘陵整備事業担当と都市づくり部、建設部と、将来計画も含めてや
っていただけるのかどうか議論しました。その結果、候補地として考えているエリアは、保護す
るだけではまちづくりはできず、影響がないよう配慮した上で道路を整備することなどで地
区が活かされるという方向性が出たのでここにした経過があります。北部丘陵整備事業と町
田市の基本計画は何も変わっていません。具体的な建設地については、道路や将来的には交
通網のことも視野に入れながら位置を決めていくため、場所は決定していません。

地区連絡会については、各施設周辺の町内会自治会代表の方等に集まっていただき、これ
からつくっていきます。今後、地区の役員の方たちと話を進めさせていただき、その中で代
表の方を選んでいただき、地区連絡会を開催していきたいと考えています。

(市民)

トルエンのことが気になるが、先ほど脱臭装置をつけるということであったが、脱臭装置で
は「臭い」をとって、他は残るのではないかと。脱臭装置をつけることによって濃度がどの程度
下がるのか。脱臭装置とは臭いのことではないのか。

(町田市)

容器包装プラスチックを圧縮して出てくるものの中にトルエンがあるとお話しました。
プラスチックは石油製品であり、圧縮すると、石油に含まれているものが基本的には出ます。
新しい資源ごみ処理施設では、トルエンのような揮発性有機化合物を活性炭で吸着除去する
予定です。多摩市の資源化施設でも活性炭で吸着除去し、問題ない濃度まで下げられること
はわかっています。

(市民)

町田市が農と緑の基本計画で、北部丘陵地域について決めている。道路を造っていくことな
ども大事であるが、あくまでも農と緑を基本にしたまちづくり計画にふさわしいものにして
いく必要がある。資源ごみ処理施設をこの地域に造るのは適当ではないのではないかと思う。
資源ごみ処理施設の分散配置の考え方で8つの施設(①プラスチック圧縮梱包施設、②カン
選別処理施設、③ビン選別処理施設、④ペットボトル圧縮梱包施設、⑤トレイ・紙パック貯
留場所、⑥有害ごみ貯留場所、⑦製品プラスチック貯留場所、⑧使用済小型電子機器等貯留
場所)が示されているが、3ヶ所のうち、どの地域でやるのか。上小山田西部エリアにはど
のような施設が入ってくるのか説明してほしい。

(町田市)

8つの施設のうち、プラスチック圧縮梱包施設の処理量 26.4 トンのうち、5 トンをリレー
センターみなみで処理することになっています。残りの 21.4 トンを上小山田西部と相原の
2 箇所それぞれ 10 トン強を処理する予定です。その他カンやビンなどについては、上小
山田西部と相原で半々に分けて処理する予定です。現状ではプラスチックを 3ヶ所、それ以
外は 2 箇所に分けて処理します。

(市民)

1997年のダイオキシンや最終処分場の問題で、住民が何も分からない状態でいた頃と様変わりをしたと思っている。2006年のごみゼロ市民会議を受けて、廃棄物減量等推進審議会が行われ、審議会を私はすべて傍聴した。その後の施設整備の検討委員会の市民公募に応募して委員になった。私はこの施設でよかったと応援したい気持ちである。現在は全部のごみ処理施設が集まっているし、最終処分場については何の手当てもされずに放置されていた。住民の反対の声に時間はかかったが、それから時間をかけて、2006年以降は着実に積み重ねて進めてきた。ビン・カン施設では、近くを散歩すると夏場はとくに臭いがする。もっと分散化すればいいけれど、お金がかかる。そんな中で、3ヶ所にわかれるのは、住民の反対運動もある中で、市の職員も隠さずにやってきた、積み重ねてきた結果であると思う。私たちが出すごみを市が私たちの税金で処理をしている。ごみをいい状態で出そうという世論が必要だと思う。ぜひ、リサイクル広場も含めて、ソフト面をどんどん広げて欲しい。それから、生ごみ処理機の普及もがんばってやる必要があると思う。小山田桜台でも最初は処理機に反対の声があったり、今でも新しく設置するというと臭いの問題で悩む人がいると思う。きれいな状態で出していけばごみは減る。市に対して指示するのではなく、私たちの税金で私たちのごみをどのように処理していくか自身で考えていくことが大事であると思う。町田市がプラスチック圧縮梱包実験をしたのは、市民の声があったからであり、私は今の職員を信じている。市民には、前倒ししてできるだけ資源化できることは資源化していくことが試されていると思う。資源化する知恵を市役所にもっと届けることを町内会単位でがんばっていただきたいと思う。

(市民)

バイオガス化施設で1日に発生するガスで、燃料にすると収集車31台分、電気にすると一般家庭1,000軒分の電気がまかなえると書いてあるが、概算で計算するとガソリン、リッターあたりに換算すると3,800円分である。エコになんてなっていない。それから、排水についてだが、80%に加水して74%まで脱水すると、出てくる排水は少ないと言われたが、濃縮されて出てくるから希釈するしかない。平成7年に横浜市はバイオガス化施設について検証していて、汚水処理の問題があるから、汚水処理場の近くでなければ造るべきではないという結論を出している。さらに生ごみについても事業系のものでないとうまくいかないだろうというレポートを出していて、市長は知っているはずである。なぜバイオガス化に固執するのか。バイオガス化施設は、どう考えても食物残さを処理する施設にはよくない。基本的にし尿処理に向いている。消臭は対応できるなどと言っていたが、八王子バイオマス・エコセンターは現在停止しているが、あれは脱臭ができなかったからである。そのエコセンターのメーカーが説明していた脱臭方法は活性炭処理である。確かに臭いをとることはできたが、2週間程度で活性炭の効果はだめになった。活性炭を交換するとおよそ1,800万円かかる。活性炭のために働いてるような格好になってしまい、失敗した。町田市の剪定枝資源化施設では毎年1億円投入して処理している。かっこばかりつけて毎年1億円もかけないといけないなんて意味がない。コストという問題は絶対にある。「エコになれば、いくらかかってもいい。」などきわめて迷惑である。必要な施設には掛けるけれど、よほど慎重にしていた

だきたい。

(市民)

今の方に賛同である。私はバイオが好きだが、生ごみ処理は難しい。どの地域でも苦勞しており、金もかかっている。うまくいっているのはし尿処理や牛や豚家畜ふん尿単独ものを処理する場合であり、バイオガスの管理ができる。生ごみの分別を町田市民がどれくらい協力できるのかという課題がかかってくるが、バイオガス化施設は、おそらく金かかり虫だと思う。それよりも、高効率の焼却施設を建設し、煙突を高くして拡散した方がよほど地域住民のためにもコスト的にもいいと思っている。バイオガスは近代的であるし、いいと思うが、町のごみ処理方法としてはかえってたいへんだと思う。